

# 田舎や人を元気にする 共生する農業へ

多気町笠木 わ菜園

毎年試行錯誤しながら多品目の野菜を作っている。例えば多気町特産の伊勢いもに取り組んでいるが、有機では草の勢いに負けてしまい、思うように作れていない。では、今年はどう作るためにどうしようかと考えながら作付けの計画を立てるときが楽しいという。



多気町笠木 1258-2 TEL/FAX 0598-39-3571 ブログ <http://plaza.rakuten.co.jp/wasaien/wasaien/>

農のかたち [3]

伊勢平野と山が交わる多気町。平野でも雑木林が多いのどかな地で有機農業を営む「わ菜園」を訪ねた。春の陽気が少しづつ増してきた3月下旬、作物と共に雑草も成長して緑に覆われた畑には、薄紫色や黄色の花々が咲いていた。

2004年にこの地に新規就農した鎌田友生さん(33)がミブナを収穫する。無農薬・低農薬の野菜宅配業者「らでいっしゅぼーや」への出荷用で、あるていど畝に積み上げると、また一株ずつ絡みついた雑草を取りのぞいてカゴへ。「雑草を取る作業がなければ、収穫はもっとはかどるのですが」と鎌田さんは手を動かしながら笑う。

計1町3反になる10枚ほどの畑で年間20〜30種類の路地野菜を作るわ菜園は、野菜の宅配業者に出荷するほか、地元で野菜セットの宅配もしている。

一緒に就農した奥さんの里絵さん(30)が子育て中のため、いま畑で働くのは友生さん一人。



冬野菜を作る畑。隣の柿畑で農業が使われるので夏は作物を作らず、メヒシバなどの雑草を茂らせてから緑肥にしている。

ある。それからは良質な堆肥作りや土壌分析などの勉強会に積極的に出るようになり、土作りに取り組んだ結果、3年前から冬野菜も春先まで長く収穫できるようになった。

「今は自分たちの生活だけで精一杯ですが、もっとしっかりと野菜を作れるように努めて、周りのことも考えていけたらと思います。田舎の第一次産業が元気であることがすごく大事じゃないか、自分のことだけでなく他の人や地域のことも考えられるのが有機農業的なんじゃないか、と原発の事故を見て思いました。野菜と共にいずれ加工や食の分野にも取り組んでいきたいです」。

奥さんの里絵さんは、わ菜園



収穫が遅れてしまった小松菜が菜の花を付けていた。「もう少し暖かくなると蜜蜂がたくさん来るんですよ。とりあえずそいつらが満足するまで取っておこうと思っています」と友生さん。

前日はヘッドライトを付けて夜9時頃まで収穫したという。らでいっしゅぼーやほどの大手通販業者になると少品目に特化して出荷することもできる。その方が負担は軽いですが、友生さんは「自分もいろいろ食べたいから」とたくさん野菜を作る。

埼玉県出身で実家は非農家。10代のころ環境問題に興味を持ち、自然環境に調和できる有機農業に憧れた。そして無農薬・無化学肥料の農業でちゃんと食べられることを実証しようとして、2003年に伊賀市で有機農業を営む「いわん農場」の研修生になる。

里絵さんは多気町出身。大学時代にやはり環境問題に興味で作った農産物を原料に、味噌やみりん、ドレッシングなどの調味料やタクワンなどを手づくりするうえ、自給する楽しさや知恵をみんなで分かち合おうと年数回、料理づくりの会も開いている。毎回10〜15人の主婦が参加して楽しいひとときを過ごしているが、もっとその活動を広げられるような仕組みを模索しているところだ。



鎌田家。2歳になる野乃花ちゃんも両親のたくましい手によって育てられている。

持ち、アジア各国を旅するなかで、地に足の付いた農的暮らしに豊かさを覚えた。味噌などを手づくりするようになり、さらに農業も選択肢の一つと考え、いわん農場へ。

研修期間中に二人は一緒に就農することを決め、週1回の休日はその準備に当てるようになった。就農先を各地に探したなかで、里絵さんの実家がある多気町の役場の担当者が積極的に協力してくれ、畑や民家を借りる手配もしてくれた。二人はまた、多気町周辺で有機農業をしている人をインターネットで探し、旧勢和村(現多気町)で有機農業を営む野呂元士さん(48)を訪ねる。野呂さんは地元で有機農業に取り組み仲間と立ち上げた「なほし会」を通して、らでいっ

しゅぼーやや生協などに出荷しており、良かったら一緒にやろうと言ってくれた。

地域の人たちの協力を得て、出荷先も確保できたうえで就農できたが、順風ばかりではなかった。「有機農業に憧れて就農したのですが、実はガソリンがなければ軽トラも農機具も動かさないし、農業資材もゴミを生み出してしまいます。環境にやさしい持続可能な有機農業が幻想だったことに就農して間もなく気づいて、農業への意欲がなくなりました」。何をしたいのかわからなくなり、環境活動にのめりこんだ友生さんを、あるとき「なほし会」のメンバーが農業の勉強会に誘う。「有機農業の基本的な土作りの大切さを学ぶ勉強会だったのですが、すごく面白くてストンと入ってきました。農業は土だな、良い土ができたらどんな野菜ができるんだらうと希望が湧きました」。

良い土とは団粒構造のふかふかした土で、保水力や保肥力も



みりん作り会。いろんな調味料と一緒に作り、昼はその調味料にちなんだ料理も作って味わう料理会。みりん作り会では、みりんの原料がもち米なのでいろんなもち料理も楽しんだ。